

環境白書の刊行に当たって

広島県知事 湯崎英彦



私たちが住む広島県は、南に瀬戸内海の多島美、北に雄大な中国山地を有しており、豊かな自然環境に恵まれています。

本県では、この恵み豊かな環境を将来にわたって守り育てるため、平成28年3月に「第4次広島県環境基本計画」を策定し、「環境・経済・社会」の統合的向上を図りながら、環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みの構築を目指して、県民や事業者の皆様と連携・協働した取組を進めているところです。

近年の環境を取り巻く情勢としては、気候変動の影響による自然災害リスクの増幅などが懸念される中、気候変動の国際枠組みである「パリ協定」の本格運用が本年から開始されるなど、地球温暖化への対応が注目を集めております。

本県においても、温室効果ガス削減に向け、私たち一人ひとりがライフスタイルを見直すなど、地球温暖化対策を推進していく必要があります。

また、世界的に海洋プラスチックごみによる環境汚染への懸念が高まっており、令和元年6月には、G20大阪サミットにおいて、2050年までに新たな海洋プラスチック汚染をゼロにすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が採択されました。

本県では、海ごみの回収や清掃の取組に加え、使い捨てプラスチックの流出防止対策を進めていくこととしており、本県の宝である瀬戸内海の環境保全に取り組んでまいります。

この白書では、「第4次広島県環境基本計画」の体系に沿って、本県の環境の現状や課題及びこれらに対する取組などを幅広く掲載しています。

本書が、県民や事業者の皆様のご環境に関する理解を深め、考え、そして行動につなげるための一助となることを期待します。

令和2(2020)年9月